

私立大学情報教育協会・化学教育FD/IT活用研究委員会  
平成21年度第2回委員会議事録（案）

日時：2009年8月31日（月）13:30～16:00

場所：アルカディア市ヶ谷私学会館 7階 鳥海

出席者：伊藤（委員長）、及川、掘合、木村、小林  
（事務局）井端、森下、恩田

1. 前回議事録承認

委員長による配布資料の確認および前回議事録の確認と承認が行われた。

2. 参考資料説明

事務局より、参考資料に基づき、日本学術会議の動向について説明がなされた。

3. 検討事項

（1）化学教育における学士力の到達目標についての内容検討

委員長により、配布資料を参照しながら、委員会としての学士力のイメージの再確認が行われ、各項目の化学の科目の中での対応付け、学士としての最低限の必要性、評価の方法や基準を考慮しながら、到達目標の詳細の検討を進める旨の検討の方向性が述べられた。また検討に先立ち、伊藤委員長より「化学物質」という用語は「物質」に統一してはどうかとの意見が出され、了承された。

詳細な項目の検討は事前に提出されていた各委員の意見を委員長がまとめた資料に基づきフリーディスカッション形式で行われ、到達目標として挙げられた項目のうち、類似の内容、包含関係の文言を集約、意味があいまいなものは、文言の具体化を行った。その結果、到達目標は別紙「学士力の到達目標案」の通り、各分類とも5項目程度設定された。また、ミニマムなレベルを到達目標として設定するという趣旨から低位のレベルでは「・・・を理解できる」、「・・・を利用できる」ことを到達目標とし、上位のレベルでは「・・・を活用できる」という文言を用いることとした。

（2）コアカリキュラムのイメージの検討

コアカリキュラムのイメージとして、（1）で設定した到達目標を達成するために必要または関連するキーワードを各種別ごとに設定した。なおキーワードの追加・修正については継続検討となった。

(3) 到達度・達成度の判定・測定方法の検討について

(1) でまとめた各到達度の判定・測定手法については、次回委員会までに各委員が検討の上持ち寄ることとした。また、各委員が検討した判定・測定方法によっては、(1) の内容に変更を加えることがある旨確認された。

以上